

テーマ…さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべ」き我が身

長引くコロナウイルスによる自粛生活の中で、様々な差別や偏見が問題になり、果てはネット上での誹謗中傷に至るまで、行き過ぎた言動が横行している今日この頃。

私には「自是他非」という言葉が思い浮かびます。自分にとって都合な他者を排除したい、人を非難して止まない。そのような心は自分にもある、間違いなくあると、いただきました。

例えば「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」（人は条件や状況が整えば、自分の思いに関係なく、どんな行為でもする／『歎異抄』第十三章）と、親鸞聖人は教えてくださいました。その時その時の自分の都合や立場で、善悪は簡単に入れ替わるように、実は人間そのものが全く当てにはならないということをおっしゃっているのです。これこそ仏教が説く人間観でありましょう。

仏法は、私どもが普段当たり前とと思っている価値観や考え方に対し、「あなたはそれで本当にいいのか」と、根底から問い直す教えなのです。

世間法から仏法への転換の歩みを続けていきたいものです。

稲沢市・徳善寺 加賀 手良雄